

## 有機農業技術のつぼ

作物名	レタス・ミニトマト・ほうれんそう
対応技術の項目	土づくり技術
	施肥・栽培改善法
	作物残渣物の土壌鋤込み

《情報収集先の経営概要等》

幌延町 就労継続支援 B型事業所 安心生産農園  
 経験年数12年（うち有機年数12年）

経営耕地面積 1.36ha（全面有機）

ミニトマト	0.14ha	メロン	0.02ha
ほうれんそう	0.28ha	ナス	0.03ha
レタス	0.09ha	ピーマン	0.03ha
スイートコーン	0.05ha	ばれいしょ	0.70ha

労働力 職員9人 施設利用者24人  
 有機JAS認定の取得状況 平成16年取得

問題点

農作業の省力化が必要となった

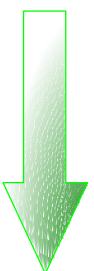


- 福祉施設職員と施設利用者による営農であり、一般農家に比べ労働面での制約があるため、農作業の省力化が求められていた。

対応

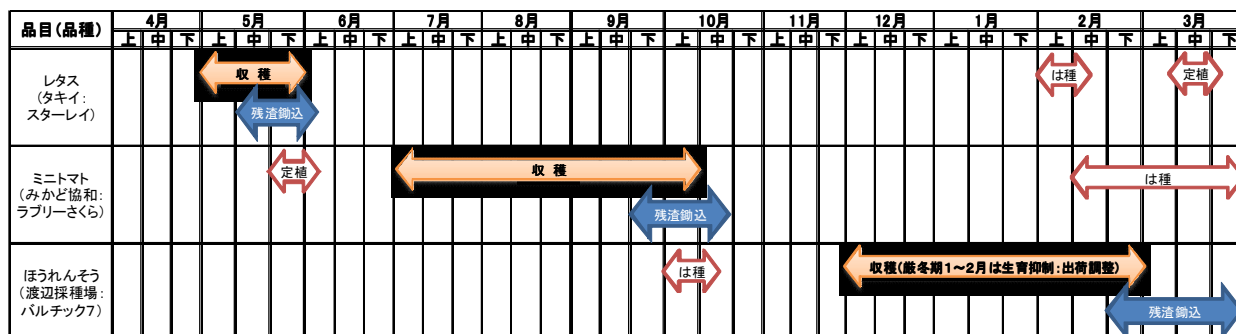
収穫残渣物の土壌への鋤込みを行った

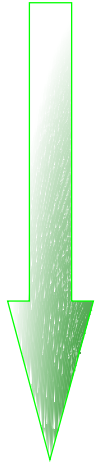
つぼ



- 土づくりと省力化のため、収穫後の茎葉残渣は外に搬出せず、土中に鋤込んで自然分解にまかせている。
  - ・ レタス、ミニトマト、ほうれんそうの年3作を同一ハウスで栽培。
  - ・ 鋤込みから、は種（定植）までの期間を3～10日間に短縮することにより、ハウスを通年でフル活用している。

ハウス栽培の作業スケジュール





□ 具体的な鋤込み手順

- ① 前処理  
手作業で適当な大きさに破碎  
(レタスの根茎はスコップで碎き、ミニトマトの茎葉は20cm程度に裁断する。)
- ② 施肥  
EMぼかし(※)+貝化石  
+周囲の刈草(夏場のみ)
- ③ ロータリー耕  
耕起深20cmで3回実施
- ④ マルチ被覆(必要に応じて)  
EM活性水を散布後マルチで被覆。

※ EMぼかしは次の材料を混和して製作

- ・ EM菌
- ・ ふすま
- ・ 米ぬか
- ・ 腐葉土
- ・ 厨房から出る野菜くず
- ・ おが粉 等

※ 上記により鋤込み後3~10日後には種(定植)が可能となった。

※ **対応技術活用上の注意点**

- ・ 後作物のは種(定植)時期を遅らせないため、収穫期間は当初計画どおり終了させること。
- ・ 本事例は3品目の輪作体系を導入し、作物収穫残渣の分解を促進するため、EMぼかしと貝化石を混和・鋤込みしている事例である。



茎葉残渣(ミニトマト)



ロータリー耕



鋤込み完了

**成 果**

**農作業の省力化が図られた**

- 農作業が省力化され、ハウスの利用効率も向上した。

**【留意事項】**

本事例は、栽培開始4年目の事例であり、茎葉鋤込みによる土壌病害の影響は、今後、継続的に観察する必要がある。